

# 喫煙の認知症リスクは

前

COI  
講演会

## 二宮教授（九大）が解説

弘

弘前大学と県、民間企業が連携して脳卒中や認知症の早期予兆発

見、予防法開発に取り  
組むプロジェクトの研  
究拠点「COI拠点研

究推進機構」事業の一環で、弘大は4日、同  
大大学院医学研究科で  
特別講演会を開いた。

九州大学大学院医学

研究院付属総合コホー

トセンターの二宮利治

教授が講師を務め、

「久山町研究の最前

線」と題して講演し

た。

同大では1961年

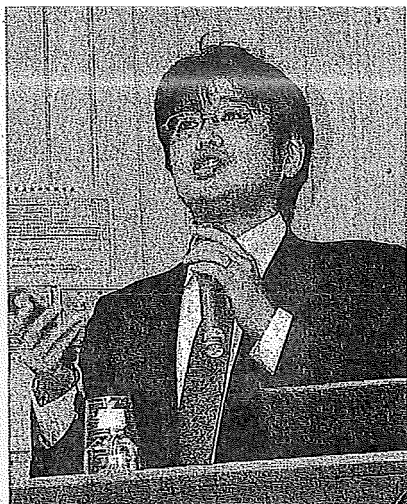
から福岡県久山町の40

歳以上の全住民を対象

にコホート研究を実施。一定期間追跡して  
疾病発症情報を調べ、  
喫煙の有無などの情報  
と疾病の因果関係を調  
査している。

講演会では、追跡調  
査で判明した生活習  
慣、健康状態における  
認知症発症リスクにつ  
いて紹介。中期から  
老年期まで続けて喫煙  
している人は、同期間  
の非喫煙者より認知症  
リスクが2倍以上であ  
ったことなどの研究成  
果を解説した。

久山町研究の成果について語る二宮教授



（成田真矢）